

自由民主党総裁選で立党の精神を取り戻し日本の自立を考える会（立党議連）

なぜ、今立党の精神なのか

昨年、一昨年と総裁選を経験し、一体何のために総裁選をするのかを今一度私たち自民党の国会議員、そして自民党の党員が真剣に考えなければわが党は滅亡するのではないかというほどの強い危機感を持っています。

二回も続けて総理が任期途中で職を辞し、しかも今回の総裁選の後には解散、総選挙が不可避です。民主党は、政権担当能力がないにもかかわらず、これを政権奪取の千載一遇のチャンスとみて選挙戦を挑んでいきます。

しかしこのようなときだからこそ自民党のアイデンティティに根ざした政策理念を総裁候補に提示していただきたいのです。

「自民党の立党の精神に立ち戻れ」ということです。何が民主党と自民党を分けるかという立党宣言です。まだ占領の記憶が新しい昭和30年に立党したわが党は、国民政党であり、政治は国民の幸福のためにあることを党の使命の冒頭に掲げました。そして立党宣言には、真の改革を続行すること、自主独立、そして国民道義の確立がその核として謳ってあります。この立党の精神に立ち戻る議論を総裁選でしなければなりません。

自民党の危機はすなわち日本の危機です。今こそ自民党は立党の精神に立ち戻って国民の幸福のために政治をしなければならないからです。

前回、前々回の総裁選も政策論争をするということでした。しかし果たして結果はどうだったのでしょうか。安倍総理が掲げた戦後レジームからの脱却を今誰が言っていますか？もし安倍総理を総理に押し上げた人々が心底戦後レジームからの脱却という政治理念に賛同していたのならそれをいう人がいないことをどう説明するのでしょうか。

みせかけだけの政策論争、総裁選のためだけの政策論争、選挙の顔を選ぶための人気とりや勝ち組志向で総裁選をしたのなら、こんどこそ自民党は終わりです。

一体この国をどうしたいのか、どういう社会を目指すのかという国家理念を総裁候補にしっかりと語っていただき、責任与党としての威信、厚み、信頼感といったものを国民にしっかりとここで示していただきたいのです。

もちろん、今の日本の閉塞的な経済状況を踏まえた経済政策と財政再建議論も重要です。しかしそんなことは多くの国民がわかっていることです。国の将来についての理念、目的を語らないリーダーに国民はついていくことはできません。自民党の総裁は日本のリーダーなのです。

この国をどうしたいのかという大きな理念の下でこそ、政策議論の意味が出てくるのであり、小手先の政策議論に陥ってはなりません。

今回の総裁選は自民党のそして日本の命運をかけた、日本のリーダーを選ぶ選挙であり、その重要性に鑑み選ぶ人だけでなく立候補する人に、真摯に考えていただきたく、みずからの非才を省みずここに政策等の提言を行うものです。